

マラウイ月報(2014年11月)

主な出来事

【内政】

- 公金横領事件のルテポ被告, バンダ前大統領の関与を示唆
- マラウイ政府, 大臣等の国外出張を制限

【外政】

- ヒギンズ・アイルランド大統領がマラウイ訪問
- タンザニアとの国境問題の仲介プロセス再開

【経済】

- クワチャの下落が継続
- マラウイ政府, 国内の石油及びガス探査権の一時停止及び再検討を発表

【内政】

- ・ **公金横領事件のルテポ被告がバンダ前大統領の横領関与を示唆**
11月21日, 公金横領事件に関連して逮捕, 起訴されているルテポ被告が, ラジオ局のインタビューで横領金はバンダ前大統領の政治資金として手渡した旨の発言を行った。これに対し, バンダ前大統領が党首を務める人民党は新聞等に声明を発売, 横領への関与を否定するとともに, ルテポ被告の発言は現与党民主進歩党による策略である旨主張した。一方, 政府は人民党の声明に対する抗議声明を発売, 司法が事実を明らかにするプロセスを尊重すべきとした。(11月25日, ネーション紙1-2面, デイリータイムズ紙1-2面)
- ・ **マラウイ政府, 大臣等の国外出張を制限**
マラウイ政府は各省大臣及び副大臣の国外出張を一年度につき三回までに制限するとの大統領命令を発売した。同命令は厳しい財政状況に対応するもので, 各省大臣及び副大臣は一年度に三回を超えて国外出張する場合大統領から許可を得る必要がある。(11月8日, マラウイニュース紙1-2面)

【外政】

- ・ **ヒギンズ・アイルランド大統領のマラウイ訪問**
11月10~13日, ヒギンズ・アイルランド大統領及び同夫人がマラウイを訪問し, ムタリカ大統領との会談の後, ムタリカ大統領主催の晩餐会に参加, リロングウェ農業天然資源大学での講演やアイルランドが実施するプロジェクトの視察等を行った。(11月11日デイリータイムズ紙3面, マラウイ政府発表他)

- ・ **チリマ副大統領、故サタ・ザンビア大統領国葬に参加**
11月11日、チリマ副大統領はムタリカ大統領の代理として、故サタ・ザンビア大統領の国葬に参加した。また、チャクウェラ・マラウイ議会党(MCP)党首もマラウイ代表団の一員として国葬に参加し、チリマ副大統領が参加した公式行事に同行した。(11月13日、ネーション紙、4面)
- ・ **タンザニアとの国境問題の仲介プロセス再開**
11月20日、マラウイータンザニア間の国境問題の仲裁役を務めるチサノ元モザンビーク大統領及びモハエ元ボツワナ大統領がマラウイを訪問、ムタリカ大統領と会談を行った。会談ではチサノ元モザンビーク大統領より、仲裁プロセスはマラウイの選挙などを理由に中断されていたが、再開する予定であり、両国には忍耐強く本件問題に対応するよう求める旨の発言があった。(11月21日、ネーション紙3面)
- ・ **アメリカのポップスターマドンナがマラウイ子どもの福祉大使に就任**
11月28日、アメリカのポップスターマドンナがマラウイを訪問し、ムタリカ大統領と会談した。ムタリカ大統領はマドンナを「マラウイの子どもの福祉大使」に任命した。ムタリカ大統領はマドンナに対し、クイーン・エリザベス病院での小児科建設計画等の対マラウイ支援に感謝を示した。(11月30日、ネーションオンサンデー紙4面)

【経済】

- ・ **中国による医薬品等の供与及び競技場建設支援**
10月30日、張駐マラウイ中国大使は、カリラニ保健大臣に1.5億クワチャ相当の医薬品及び医療器具の引き渡しを行った。供与された医療器具には、心電計、電動吸引器、放射線機器等が含まれており、リロングウェのカムズ中央病院及びムズズ中央病院にて使用される予定。また、現在中国からの294億クワチャ(7000万米ドル)の借款支援を受け、リロングウェにおいて競技場建設が進められている。同競技場はオリンピック仕様に設計されたものであり、総合的陸上競技場、自然芝のサッカーコート、VIPラウンジ、売店及び展示室、プレス・ギャラリー、処置室、駐車場等を備える予定。(11月1日、マラウイニュース紙46面及び11月3日、ネーション紙3面)
- ・ **クワチャ安の継続**
11月4日、クワチャは市中銀行の為替レートでは1米ドル520クワチャまで下落した。過去2ヶ月で20%程下落しており、ビジネス等に影響を与えている。マラウイ商工会議所は、中央銀行による政策の失敗であると非難している。(11月5日、ネーション紙9面)

- ・ **日本による対マラウイ支援**

ブランタイヤ市役所は、日本政府の支援によりチペンベレ・ハイウェイ建設事業第3フェーズ（平成26年度無償資金協力事業）が11月末に開始されることを発表した。同事業での建設会社はワールド開発工業株式会社に決定している。（11月7日、ネーション紙3面）

- ・ **IMFミッションによる拡大クレジットファシリティ検証**

10月29日から11月13日までIMF代表団が、対マラウイ信用拡大ファシリティ（ECF）の検証のために当地を訪問し、財務大臣、中央銀行関係者、財務省次官等と協議を行った。代表団によれば、2014年の経済成長率は5～6%となると予測され、また、継続中のクワチャ安は、現在外貨収入が少ない時期にあるという季節要因によるものもあるが、ドナーからの財政支援が一部停止されていることも影響しているとのこと。（11月13日、ネーション紙1面）

- ・ **ドバイへの投資貿易ミッション派遣**

マラウイ投資貿易センターはアフリカ開発銀行からの支援を受け、対マラウイ投資誘致の働きかけを目的とした投資貿易ミッションをドバイに派遣した。ミッションにはマラウイの農業、銀行、観光、サービス業分野の企業が参加した。ドバイの投資家はマラウイの農業、観光、建設、加工業分野への投資に興味を示した。（11月20日、デイリータイムズ紙10面及び11月26日、デイリータイムズ紙3面）

- ・ **石油及びガス探査権の一時停止及び再検討**

11月18日、天然資源・エネルギー・鉱業省は、前政権時代に石油及びガス探査権を取得した全企業に対し、探査権を一時停止し、内容及び承認当時の手続きを踏まえて検討し直すことを発表した。（11月21日、デイリータイムズ紙9面）

- ・ **ナカラ回廊鉄道建設**

ヴァーレー社によるナカラ回廊鉄道建設について、マラウイ国内の17本の鉄道橋を補強する当初の計画が取り消され、同補強計画は実施されていないことが発覚した。マラウイ・エンジニアリング協会（Malawi Engineering Institution）は、同計画の取り消しは、鉄道橋の質の低下につながるとし、人命や設備自体の寿命への影響を懸念している。チルジ運輸公共事業省次官は、鉄道橋補強に関する当初の計画への変更については何も連絡を受けておらず、

必要であれば検証を行うとした。また、現時点ではヴァーレー社が契約違反をしたか否かは断言できない旨述べた。(11月22日、ウィークエンドネーション紙1面)